

2016 年度シンガポールでの活動報告

期 間：2016 年 8 月 27 日～29 日

場 所：シンガポール

参加者：小島 萌（国際委員会）、檜村 友隆（国際委員会）

東南アジアでは、医療先進国であるシンガポールの透析事情を調査すること、今後どのような交流が可能か検討することを目的にシンガポールの施設の見学に行ってきました。

シンガポールの国内には、現在、透析施設が 25 施設あり、今回訪問した DaVita グループの運営している施設は 3 施設ある。透析患者数は約 3000 人であり、そのうちの 400 人が PD 患者とのことでした。1 回の透析料金は 160 シンガポール \$、保険はアメリカと類似しており、様々な種類が混在し、今回の見学先である KDF Bishan Centre では、透析料金は寄付によって賄われていた。

見学先である KDF Bishan Centre では、2 人の看護師に案内してもらった。施設は非常にきれいで、全部で 20 床程あった。すべてリクライニングチェアだった。

治療については、DaVita では HDF は行っておらず、シンガポール国内では私立の病院で HDF を実施している施設も少数があるとのことだった。ダイアライザは、15 回ほどリユースし、主にハイフラックス膜を使用（日本の旧区分でⅢ型）している。また、リユースの処理は、薬品（過酢酸）を使用するため、規定の研修を受けた看護師が実施している。

エンドトキシン（ET）に対しては、RO 装置とコンソ

ールのラストポイントで 2 ヶ月に 1 回測定し、エンドトキシン捕捉フィルタ（ETRF）は、コンソールに 1 本装着してあり、3 ヶ月で交換する。HD03 を用いた再循環のチェック、DW の状況を検討するためにインピーダンスアナライザを使用した体液組成チェックも行っている。

施設には、医師が常駐しておらず、月に 1 回ほど回診している。一方、緊急事態が起きた場合には、医師に連絡し、対応してもらう。シンガポールは狭い国であることから、医師大体 15 分以内に駆けつけることが可能とのことだった。

シンガポールには「臨床工学技士」のような職種は存在しておらず、日本の臨床工学技士に対して非常に興味があるようだった。案内してくれた看護師から「看護師との境界線はどのようになっているか」という質問を受け、日本の現状を説明した。「メーカーを呼ばずに機器の対応をしてもらえるなんて素晴らしい」、「現在は看護師のみで全てを行っているのと一緒に働けたらすごくいい！」とのことで、「今回のミーティングをきっかけに、今後も情報交換等を行っていきたい」と、日本との交流を希望されていた。どのような形で交流活動していくのがよいか、今後、検討していきたいと思った。

